

平成6年度全国女子委員会連絡委員会会議報告

○期日 平成6年7月9日～10日

○場所 1日目 日本青年館 2日目 グリーティングルーム

○参加者 若木のぞみ（長崎県代表参加）・・・長崎県の日本陸連女子委員会連絡委員

【会議報告】

○参加者 34都道府県の連絡委員35名（47都道府県中）

日本陸連女子委員会委員12名 合計47名

○報告

1日目

日本陸連を代表し、佐々木総務委員長から「日本ではまだ男性のリーダーが多いが、これからは女子がもっと活躍することが望ましい」と激励を受けた後、女子委員会H5報告及び本年度活動計画を発表。地方陸上競技協会の報告も行われた。各県の報告より、今年度女性理事が増えたこと、それぞれに前進してきているように感じる。（日本陸連女子委員長 浜松ヨシ江氏による報告書による）

広島県女子委員会報告

女性を大切にしてくれる県の応援を受けて、中学校女子駅伝、中国女子駅伝を女性の審判で実施していることが報告された。広島県では、アジア大会があるので、女性審判員の構成がなされている。選手層は薄いですが、鈴木文選手が広島に移ってきたので、大変よい刺激をうけ、場所の提供等バックアップしようとしている。また、20年ぶりアジア大会へ選手を送るカンボジアからの要請をうけ、マラソン大会開催に協力するため、現地に出向き協力したことも報告。

福井県女子委員会報告

福井陸上競技協会創立50周年記念誌に掲載するため、往年の女子選手座談会を計画、座談会に先立ち集いも開催され、女性指導者や審判員が出席。スピーチに耳を傾け、昼食会歓談のひとつきを過ごし、大変大成功だった。若手の男性指導者も協力的な態度をとってくれている。女性審判委員は少ないが、かなり積極的に活動することができている。

※福井県は、パンフレット、新聞切り抜き、写真、その他、公認審判員数、選手登録数の資料も準備されたの発表だった。

高知県女子委員会報告

高知県からは女子選手が競技を長く続けるにはという観点から、高知県出身の短距離選手である久保千晴選手に関する詳細な記録資料を準備しての報告がされた。高知県は高知女子教員クラブ登録をし、競技継続環境作りに努力をしている。

2日目

昨年公認種目となった女子棒高跳、ハンマー投げを取り上げ、世界の現状と日本の現状、そして現役選手の立場からの発言者としてハンマー投げ日本記録保持者の鈴木文選手をむかえた。また、棒高跳を強くする会発足をさせた日本陸連強化副委員長の安田氏からも女子棒高跳の現状や普及について、ビデオを利用して説明をしていただいた。

【女子新種目の現状と普及について・・・情報委員長 安田氏】

国際陸連女子委員の田中良子氏より、世界の女子競技新種目の動向が報告された。現在公認種目は男子24種目に対し、女子は21。国際陸連女子委員会では、同数の種目にするべきとの意見が出されている。すでに英国では、3000SCが取り入れられており、女子の7種、男子の10種が検討されている報告もあった。日本では、昨年公認種目となったハンマーと棒高跳。島根、広島、栃木の県選手権に早くもこの3県は取り入れており、9月の全日本実業団でも開催される予定。安全性についても講話がなされた。